

東洋大学 産官学連携事例

研究内容を公開可能な産官学連携事例をご紹介します。(2023/9/26時点)

研究担当者	所属	共同研究 受託研究	連携先	研究テーマ	研究内容	年度
澁澤健太郎	経済学部	共同	盛岡市	新規就農の農業経営体から見る、多角化経営の分析と将来展望について	「つくる農業」のみならず、儲かる農業を目指して、プラスα（E.C.、体験農園等）に取組もうとされている、新規就農の経営体を調査、農業経営体の更なる発展に向けた取組を支援する。	2021-2023
野中誠	経営学部	受託	日本電気株式会社	ソフトウェア開発改善のためのデータ分析手法の研究	ソフトウェア開発を改善するための重要な要因を分析するための手法を検討し、明確にする。さらに実際にその手法を適用することにより要因そのものを明らかにする。	2009-2023
今泉淳	経営学部	共同	公益財団法人鉄道総合技術研究所	災害発生後の車両運用計画作成に関する研究	大規模な自然災害発生後の車両運用計画作成支援を目的とした、条件を満たした運用計画を自動作成するための手法の開発に関する研究	2021-2023
山本聡	経営学部	共同	大同生命保険株式会社	中小企業の経営変革に関する研究～ドイツ中小企業経営からの示唆	ドイツ中小企業の実態や特徴を分析した国内外の文献の調査のほか、有識者や専門機関、ドイツ中小企業経営者、ドイツ中小企業と取引のある日本の中小企業経営者等へのインタビュー調査を通じて、日本・ドイツにおける中小企業経営の調査・比較研究を行い、中小企業経営に有用な示唆を得る。	2022
石田実	経営学部	共同	楽天グループ株式会社	環境省 令和4年度ナッジ×デジタルによる脱炭素型ライフスタイル転換促進事業（国内最大級の消費者プラットフォームを活用した脱炭素型ライフスタイル転換促進事業）	C02可視化による環境配慮行動促進効果の検証。国・地方脱炭素会議において決定された地域脱炭素ロードマップにおいて、「見える化」によるライフスタイルインベーションが記載された。そこで、「見える化・ナッジによる日常化」「ポイント等のメリットづくり」を軸として、C02の可視化・C02排出削減度に応じたポイントインセンティブ等の活用により、行動変容を促進することができるかの検証を行う。	2022-2023
石田実	経営学部	共同	株式会社インテジテクノスフィア	機械学習を用いた調査データを自動で補正する研究	先方が提供する消費者パネルデータにおける外れ値・異常値を機械学習の手法を用いて検出して補正する手法を研究する。	2020-2023
石田実	経営学部	受託	パナソニック株式会社	コロナ禍における新カテゴリー商品の購入予測モデル開発	コロナ禍において、販売が増加している新カテゴリー商品に対し、意識調査結果、購入データ、コロナ関連のイベントデータなど異なる種類のデータを統合的に扱い、購入予測モデルを導く。また、購入データ捕捉のため、パナソニックの会員組織であるクラブパナソニックの登録率向上の知見を導く	2020-2021
尾崎由佳	社会学部	共同	ユニ・チャーム株式会社	乳幼児と養育者の生理と心理の相互作用研究	スマホを用いた経験サンプリング法による日常生活の親の感情や子の様子・行動や母子の生理値（心拍数や心拍変動）のデータ収集を行い母子間の各因子の関係性やそれらが子の発達や母親による子への愛着などに及ぼす影響を検討する。	2019-2023
尾崎 由佳	社会学部	共同	株式会社らんな	労務管理アプリの機能改善に関する研究	労務管理アプリについて、データ収集方法、データ分析方法、用語、ユーザーインターフェースなどを多面的に検討し、改善することにより、高い達成を促す機能を備え、かつ実践的で使い易いアプリを開発する。	2022-2023
桐生正幸 北村英哉 尾崎由佳 橋本剛明	社会学部 社会学部 社会学部 社会学部	共同	富士通株式会社	犯罪未然防止のAI化	本研究は「特殊詐欺」に対し、AI技術と犯罪心理学の知見を用いて、効果的な被害予防システムを構築するものである。「特殊詐欺」の過去のデータを解析し、加害者側の要因と被害者側の要因、そして犯罪場面を取り巻く環境要因から、被害予防の介入時点を明らかにし、尼崎市の協力を得て実験を行う	2021-2022
桐生正幸 北村英哉 尾崎由佳 橋本剛明	社会学部 社会学部 社会学部 社会学部	共同	富士通株式会社 尼崎市	特殊詐欺検知AI技術に係る共同研究に関する協定	複雑化かつ巧妙化する特殊詐欺被害の未然防止に向けて、AIと犯罪心理学を組み合わせたコンバーシングテクノロジーを活用することで、被害者が特殊詐欺に騙された状態であることを高精度に推定するモデルの開発を目指す。	2021-2024
榊原圭子	社会学部	共同	三井デザインテック株式会社	オフィスにおけるコミュニケーションの効果	オフィスにおけるコミュニケーションについてインターネットアンケートを実施し、生産性等の影響について分析を行う。	2018-2023

東洋大学 産官学連携事例

研究内容を公開可能な産官学連携事例をご紹介します。(2023/9/26時点)

研究担当者	所属	共同研究 受託研究	連携先	研究テーマ	研究内容	年度
山田和明	理工学部	受託	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)	機械学習による生産支援ロボットの現場導入期間削減と多能化(事業名:次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発)	工場や農地などの生産現場で環境との接触がある高度な物体操作を伴う作業を行う生産支援ロボットを、自律多能化して現場に導入しやすくし、そのロボットを労働力不足対策の一助とすること。	2019-2022
横田祥	理工学部	共同	オザック精工株式会社	起床・移乗支援機器又は介護ロボットの研究	自力で起床・移乗が困難な被介護者を対象として、ベッド上の抱き起こしと車椅子への移乗、また、車椅子からベッドへの移乗を支援する機器又は介護ロボットを開発する。	2019-2022
加藤和則	理工学部	受託	国立研究開発法人科学技術振興機構	低CO2と低環境負荷を実現する微細藻バイオフィナリリーの創出に関する学校法人東洋大学による研究開発	微細藻類を原料とした有用物質生産とバイオ燃料生産を実現し、それらを統合したバイオフィナリリー・プロセスを創出することにより、バイオ燃料の製造コスト削減し、バイオ燃料の早期実用化を目指す。	2020-2021
峯岸宏明	理工学部	共同	有限会社佐藤酒造店	佐藤酒造梅林および川越キャンパス産酵母を用いた清酒醸造	佐藤酒造店内の梅林および川越キャンパス内の花から清酒醸造に適した酵母菌 (Saccharomyces cerevisia e) を分離し、オリジナル日本酒の開発に向けて、試験醸造を行う。	2022
平瀬祐子	理工学部	受託	国立研究開発法人産業技術総合研究所	仮想同期発電機制御の動作安定性の解析	ノンファーム型接続の早期実現に向けた個別系統の予測・制御システムの開発や、分散型ネットワークシステムの確立に向けて、配電系統における電圧や潮流の変化などの課題を解決するための最適な系統の制御技術の開発。	2020-2021
山崎宏史 村野昭人 青木宗之	理工学部 理工学部 理工学部	受託	独立行政法人環境再生保全機構	環境中に放流された排水由来GHGs排出メカニズムの解明と排出量算定方法の検討	水環境に放流された生活排水に由来するCH4・N2Oの発生メカニズムを科学的に解明し、我が国の優れた排水処理技術や整備状況を反映しうる独自のCH4、N2O排出係数を開発するとともに、新たな排出量算定方法とそれに基づく排出量削減方策について検討する。	2019-2021
横関康祐	理工学部	受託	鹿島建設株式会社	CO2有効利用コンクリートの研究開発	カーボンリサイクル技術の開発を効率的に進めるためには、CO2の分離・回収が行われている場所において、カーボンリサイクル技術開発を重点的に進める必要がある。本事業では、様々な製品・構造物に適用できるCO2有効利用コンクリートの開発を実施する。	2020-2022
田村善昭 中林靖 村上真	総合情報学部 総合情報学部 総合情報学部	共同	株式会社タナカ技研	光学ガラス部品及び金属加工部品に関する外観検査サービスの製品化に関する共同研究	金属加工部品等の外観検査を最新のAI技術により自動化し、クラウドベースの外観検査サービス実現を目的とする。	2021-2023
川口英夫	生命科学部	共同	株式会社日本・精神技術研究所	内田クレペリン検査における筆跡の時間情報が内包する意味、およびパフォーマンス曲線との関連性に関する研究開発	パフォーマンス曲線を利用して、筆跡の時間情報に基づくメンタルヘルス不調の可視化と同等なリスク評価を可能とする。また、筆跡の時間情報が内包する意味を明らかにする。	2019-2023
鳴海一成	生命科学部	共同	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	放射線抵抗性細菌のガンマ線耐性に関する研究	微生物へのガンマ線照射によって誘発される突然変異の特徴と放射線耐性の分子機構に関する知見を蓄積するとともに、有用微生物資源の創成に資することを目指す	2019-2022
鳴海一成	生命科学部	共同	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	放射線抵抗性細菌の放射線耐性遺伝子に関する研究	微生物へのガンマ線照射によって誘発される突然変異の特徴と放射線耐性の分子機構に関する知見を蓄積するとともに、有用微生物資源の創成に資することを目指す	2023-2024
高品知典	生命科学部	共同	国立研究開発法人理化学研究所	アーキア・極限環境微生物(細菌)の系統分類学的研究	○温泉からの新規鉄代謝好熱微生物の探索とその系統分類学的研究 ○超好熱性アーキアVulcanisaeta属の生物地理学的研究 ○好熱好酸性・鉄還元性アーキアの鉄代謝特性に関する研究	2014-2022
高品知典	生命科学部	共同	株式会社シバサキ	バクテリア迅速検出装置を用いた細菌検出に関する研究	バクテリア迅速検出装置を用いて特定菌種を検出する手法に関する研究・開発	2021-2022

東洋大学 産官学連携事例

研究内容を公開可能な産官学連携事例をご紹介します。(2023/9/26時点)

研究担当者	所属	共同研究 受託研究	連携先	研究テーマ	研究内容	年度
柏樹良	福祉社会デザイン学部	共同	株式会社agabee	産業用ロボットの意匠開発におけるプロトタイプの手法とその効果に関する研究	工場や農地などの荷役作業のサポートを目的としたロボット開発におけるプロトタイプの手法とその効果についての研究。	2021-2024
水村容子	福祉社会デザイン学部	共同	独立行政法人都市再生機構 株式会社URコミュニティ 日本総合住生活株式会社	地域の人々がゆるやかにつながる場（コミュニティ拠点）のあり方とその持続可能な運営の仕組みづくりに関する共同研究	ヌーヴェル赤羽台(旧赤羽台団地)において、多様な世代・立場の人々が心地よく繋がる仕組み・居場所の創出に向けて、UR各社および東洋大学共同で研究活動を展開しています。	2021-2024
嶺也守寛	福祉社会デザイン学部	共同	一般社団法人釧路福祉会	スヌーズレンの実践支援に関する研究	「スヌーズレン」と呼ばれる療育法を主体とする全国初の児童施設「音と光の森ルミネ」を開所し、スヌーズレンの総合プロデューサーとして東洋大学・嶺也守寛が担当した。	2021
大迫正文	福祉社会デザイン学部	共同	スミダ電機株式会社	ベクトルポテンシャルを用いた骨量維持支援機器の研究	骨及び関節軟骨の構造に及ぼすベクトルポテンシャル通電刺激の効果を検討する。	2019-2024
岩本紗由美	福祉社会デザイン学部	共同	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	日本代表を目指すラグビープレイヤーの体格基準・目標値作成のための基礎研究及び計測方法の普及—ISAK法にて—	本研究は世界的に統一された体格計測方法を用い、ラグビープレイヤーの体格計測を大規模に行い、現状を把握とポジション特性を明らかにし、日本におけるラグビーカテゴリーごとの基準値や目標値の参考資料作成を目指している。	2020-2024
川原亮一	情報連携学部	共同	日本電信電話株式会社ネットワークサービスシステム研究所	「NW特性に応じた分散型深層学習の最適化」に関する共同研究	「NW特性に応じた分散型深層学習の最適化」を研究すること	2021-2023
清水徹	情報連携学部	共同	国立研究開発法人理化学研究所	プロセッサアーキテクチャの設計・実装技術に関する研究	これからのHigh Performance Computingプロセッサ開発に必要な半導体プロセス技術、メモリ技術、パッケージ実装技術などの設計技術について、調査・検討する。	2020-2021
満永拓邦	情報連携学部	共同	日本電信電話株式会社社会情報研究所	Society5.0時代に向けた新技術分野（IoT, AIなど）に関するサイバーリスクの実証やセキュリティ対策の共同研究	Society5.0時代に向けた新技術分野（IoT, AIなど）に関するサイバーリスクの実証やセキュリティ対策を研究すること	2020-2024
満永拓邦	情報連携学部	共同	かもめエンジニアリング株式会社	ゼロトラスト環境のセキュリティ対策と攻撃検知	ゼロトラスト環境におけるセキュリティ検知・対応能力の向上を目的とした AI による効果的なログ分析	2021-2022